

○議長（前原英石君） これより、村政一般に対する質問並びに提出案件に対する質疑を行います。

通告順に発言を許します。

4番 田村 馨君。

○4番（田村 馨君） 4番田村です。

まず、質問に入る前に、新型コロナウイルス感染の後遺症で喉の調子がまだちょっと悪く、質問の途中でせき込むことがあるかもしれませんが、その際はご了承くださいたく存じます。

それでは、早速質問させていただきます。

まず最初に、小中学校の体育館へのエアコン設置について伺います。

毎年夏の気温上昇が厳しくなる中、エアコンは必須設備となっており、全国でも小中学校へのエアコンの設置が進んでおります。

本村の場合、小中学校の全教室へエアコンが設置されていますが、体育館へは未設置となっています。

学校の体育館は、災害時には地域の避難所も兼ねることから、これまでの震災や災害の教訓からも、エアコンの必要性が指摘されています。地域の避難所としてだけでなく、スポーツ教室など広く村民に活用されていることから、エアコンの設置を進めることが必要です。

設置費用は、国の緊急防災・減災事業債という制度を活用できます。これは、指定避難所になっている学校の体育館にエアコンを設置するなどのための、総務省の支援制度です。東日本大震災を受け、2012年度に創設されたもので、2017年度からは、熊本地震を教訓に、指定避難所へのエアコン設置も対象となっております。

充当率100%なので、初年度に一般財源の必要がなく、元利償還の70%が交付税措置されるため、実質的な地方負担は30%となる非常に有利な制度です。当初は2020年度までの制度だったのですが、5年間延長され、2025年まで期間が延長されています。

本村の場合、2か所の体育館の全てが避難所指定されており、全てが制度の対象となります。

エアコンのない体育館は、近年の異常とも言える猛暑の中、避難所に適した環境とは言えません。村として、緊急防災・減災事業債を活用した体育館へのエアコン整備をす

べきと考えますが、ご所見をお伺いします。

次は、報道もされておりますので皆さんご存じかと思いますが、マイナンバーカードのトラブルについて伺います。

さて、このマイナンバーカードですが、トラブルの発覚が相次いでおります。そのトラブルの事例ですが、カードの所有者本人ではなく、別の家族の銀行口座がひもづけられていた事例が全国で約13万件、他人名義の銀行口座がひもつけられていた事例が748件、マイナポイントを別人に付与していたケースは、総務省の発表で131自治体で、172件ありました。ほかにも自治体から様々なミスやトラブルが報告され、岸田内閣は、秋までに総点検するなど対応を余儀なくされています。

日本共産党では、こうした事態も想定し、個人情報を守るシステムを確立しないまま政府が自治体にマイナンバーカードの取得を急がせることに反対し、繰り返し警鐘を鳴らしてきました。

そこで、村内でのトラブル発生の数あるいは実態について答弁を求めます。

また、トラブルの要因についてはどのように受け止めているのかお伺いします。

○議長（前原英石君） 教育長 土田 聡君。

○教育長（土田 聡君） 私のほうから、4番田村議員のご質問、小中学校体育館へのエアコン設置について、所見を述べさせていただきます。

現在、小中学校とも避難場所に指定されている体育館には、エアコンが設置されておられません。議員ご指摘のように、今夏のような猛暑となる夏季に災害が発生し、避難が必要になった場合、体育館の中はかなり暑さがあり、熱中症等を発症する村民が出ることは想定されます。また、スポーツ教室や学校開放等で利用する場合も同様のことが言えます。

このような状況を考えますと、今後、体育館へのエアコンの導入に向けた取組は必要だと考えます。

しかし、エアコンを導入するに当たっては、エアコン機器の導入だけではなく、空調の効果を高めるための体育館の断熱工事を行う必要が出てきます。この場合、議員ご指摘の補助を活用した場合でも莫大な費用がかかりますので、費用対効果の面からも検討が必要となります。また、断熱工事を行った場合、大規模で長期にわたる工事となることから、体育館の全面改修等の機会を捉えた導入を検討することとなると思います。

したがって、体育館の空調機器の設置に当たっては、費用対効果を見極め、導入費用

を抑え、一定の効果が見込まれる機器の導入を検討する必要があります。

現状では、高性能のスポットクーラー等を導入する自治体も見受けられますので、舟橋村としてどのような機器の導入がふさわしいのか情報を収集しながら、十分検討の上、対策を考えてまいりたいと思います。

以上です。

○議長（前原英石君） 生活環境課長 田中 勝君。

○生活環境課長（田中 勝君） 4番田村議員のマイナンバーカードについてのご質問にお答えいたします。

マイナンバーカードは、本人の申請により交付され、個人番号を証明する書類や本人確認の際の公的な本人確認書類として利用でき、また様々な行政サービスを受けることができるようになるICカードであります。

舟橋村では、令和5年7月31日現在で2,543人（全村民の77.7%）が公布を受けております。

現時点で村では口座情報等のひもづけのミスは1件もなく、来庁者や電話でも苦情やトラブルは発生していない状況であります。

マイナンバーカードをめぐる状況については、2024年秋頃に現行の保険証は原則廃止する方針であり、発行済みの現行の保険証は2025年秋頃まで利用可能となる予定であります。

また、マイナンバーカードを持たない方のための資格確認書は、申請なしのプッシュ型で交付予定であり、有効期限は最長5年の範囲内で各保険者が決める方向で検討されております。

国はマイナンバーカードを基盤とした安全・安心で利便性の高いデジタル社会の実現を目指しており、日常生活の中でマイナンバーカードを利用できるシーンは日々拡大しております。

村といたしましても、これまでもマイナンバーカードの利便性を理解していただき、取得を勧めてきたところであります。また、村民の方が安心してサービスを受けられるよう、関係方面には安全性の確保を求めていきたいと考えておりますので、ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

○議長（前原英石君） 田村 馨君。

○4番（田村 馨君） 答弁、ありがとうございます。

まず、体育館のエアコンの件とマイナンバーの件と、それぞれ再質問させていただきます。

そこでなんですが、中学校と小学校、それぞれの体育館のほうにエアコンの設置、通常のエアコンですと、確かに大変莫大な費用がかかってまいります。また、工事も入りますので、その間体育館が使えないとかといった不具合も出てくるわけで、先ほど土田教育長からの答弁があったようにスポットクーラーという物がありますが、これ、大きな工場なんかでも使われておまして、結構クーリング性能が高い物であります。

私もちょっと前に教育長とこの件でお話しさせていただいた際に、このスポットクーラーに関して、こういうのがあるけど、どうかなというのがで、ちょっと提案させていただいた経緯もあります。

そこでなんですが、この設置に関してなんですが、通常の、いわゆる空調設備を設置した場合、あるいはスポットクーラーを導入した際のコストについて、おおよそでいいんですが、幾らぐらいの予算が必要になるのかちょっと伺いたいと思います。

それから、次にマイナンバーカードについての再質問でございます。

舟橋村のほうでは現在トラブルがないということで、非常に幸いなことでありますが、ただ、今後、絶対にないとも言えないわけございまして、注意して見ていかななくてはならないのではないかなと思っております。

田中課長からの答弁にもありましたとおり、このマイナンバーカードに今後健康保険証がひもづけられるという予定になっております。このマイナ保険証についても、非常に実は全国的にもトラブルが頻発しております。

例えばなんですが、先ほどの事例にもありましたとおり、このマイナ保険証に別人の情報がひもつけられていたとか、あるいはこのマイナ保険証自体が必要な情報にアクセスできないというトラブルがあって、結果的に患者さんはどうなったかという、医療費を10割請求された。こういったようなケースも発生しております。

実は富山県内でも全くトラブルがないかといえば、そうではない。県の保険医協会のほうで調査をされたということです。そこで、160の医療機関のほうから回答があったわけなんですが、その中で63%の機関で他人の情報がひもつけられていたなどのケースがあったとのことなんです。

そこで、以前、共同通信が全国の市区町村長にアンケートを実施しております。現行の紙の保険証を廃止するという方針に関してどうなのかという内容だったと思うんで

すが、その中で渡辺村長もこのアンケートに回答されております。

これ、新聞のほうにも報道されておまして、渡辺村長は、この現状の紙の保険証については廃止を延期すべきではないかというふうに回答したとも報道されております。

このマイナンバーカードのトラブルについて、村長のまず見解を伺いたいと思います。

○議長（前原英石君） 教育長 土田 聡君。

○教育長（土田 聡君） ただいまの田村議員のご質問にお答えしたいと思います。

エアコンの設置に関してですが、断熱工事を入れた場合にかかる費用、具体的な数字はなかなか申し上げることができませんが、一般的なところでいきますと1億ほどかかるというふうに言われております。また、その後のランニング費用に関しては、少し、分かりませんが、エアコン1台というわけではないと思いますので、数台のエアコンが入ることから、電気代のほうもかかってまいるというふうに思います。

もう一方のスポットクーラーに関してですが、こちらのほうはホームページ等で調査いたしましたところ、あるメーカーでは800ほどの学校がそれを導入しているというようなところもありまして、1時間当たりの費用、100ボルト電源でオーケーだそうなので、それでいきますと1時間当たり34円ほどの電気代で済むということから、必要なときに必要なだけ使えるということから、スポットクーラーのほうの方が費用対効果は高いのではないかというふうに考えております。

以上です。

○議長（前原英石君） 村長 渡辺 光君。

○村長（渡辺 光君） 今ほど、4番田村議員のマイナンバーカードの保険証、マイナ保険証についての見解を伺いますというご質問に回答させていただきます。

まずではあるんですけども、先般ございました共同通信のアンケートに対しましては、私は来年秋の廃止を延期すべきというふうな回答をさせていただきました。

この廃止を延期すべきという中には、2つ意味合いがあると思っています。決して廃止をすべきというふうに考えていないということと、来年の秋に廃止をすることを先延ばししたほうが良いという、そういった2つの意味がありまして、まず、廃止をすべきではなく推進すべきであるというふうに私が感じておる理由のほうからご説明をさせていただきます。

まず、1点目なんですけれども、1点しかないので、1点ご説明させていただきたいんですけども、厚労省のホームページにも記載がございますが、このマイナ保険証を利

用する最大のメリットというところについてですが、現在問題にもなっております、投薬の残薬と言えればいいんですかね、処方された残薬、その問題の解決にこのマイナ保険証というのは、私、非常に有効に働くのではないかというふうに感じております。

厚労省のホームページ上には、あくまでも自身の薬の履歴や過去の特定健診の情報等の提供に同意した場合に限りではあるんですけども、医師の方がより多くの正確な情報に基づいた総合的な診断や、重複する投薬を回避した適切な処方を受けることができるというふうに示されております。

今ほど申し上げました、じゃ一体全体、残薬、どの程度国内であるのかという部分においては、こちら、日本薬剤師会の調査、ちょっと古いんですが、2013年の調査によりますと、在宅されていらっしゃる75歳以上の方を対象にした調査で、年間、総額におきまして475億円以上の薬が服用されることなく残っている状況であると。そこから類推にはなるんですけども、日本全体では1,000億円以上の残薬が、毎年服用されることなく残っていると。

こういった部分に関しまして、社会保険料等の部分において今後もどんどん増えてくると予想されますので、このマイナ保険証を利用することによって、こういった問題の解決につながるのではないかというところが、私はまず導入をしたほうがいいんじゃないかなと考えている一つの要因でございます。

そして、じゃそれを、保険証を来年秋の廃止を延期すべきと、先延ばしにしたほうがいいんじゃないかなというふうにお答えした理由としては、先ほどの田中課長の答弁にもございましたとおり、安心・安全なデジタル化という部分において、多くの国民の皆さん、村民の皆さん、共同通信の結果によると7割強の方が延期もしくは撤回を求めているという状況を勘案しますと、なかなかこの安心という部分でご理解をいただけていない状況だというふうに認識しております。

その上で、当初想定されておられます来年秋に廃止という前提を変更することなく進めることに対しては、私自身、エビデンスが取れていないものを強行的に進めることはちょっと問題があるのではなかろうかというふうに感じたため、廃止を延期すべきというふうな回答をさせていただきました。

様々な問題、今報道で取り上げておられますけれども、すなわちこの登録作業について問題があったのではないかなというふうに思います。制度的な理解も進んでいないというふうな部分はもちろんあると思うんですけども、登録作業について大きく問題があ

ったというふうに私は認識しておりますので、一旦この登録作業についての洗い出しというのは現在進めておりますが、同時にこのマイナ保険証の制度のメリットをもう少し村としても周知して、皆さんにご理解をいただいて、廃止という流れが適切ではないかなというふうに考えておるということを現在の私の見解としてお伝えさせていただきます、答弁とさせていただきます。